

私は初日のみの参加となったため、テーマ別で行われた分科会を中心に記載する。

くるま座談

分科会「ヘンタイが中山間地農業を救う!？」

※分科会のスタイル

- ・1グループ約6名のグループが4つ
- ・テーマは「明日から行うヘンタイ活動」にてグループディスカッション

■分科会で私が参加したグループの内容

○地域内(豊田市)の参加者

おいでん・さんそんセンターのセンター長の鈴木さんをはじめ、^{いなぶ}稲武・旭地区での農業就業者

○地域外の参加者

名古屋市内で食品メーカー勤務者

自分

○地域内における農業の位置づけ

目的は、未来に向けて地域を残していくこと

手段は、農業を継続していくことで、食を維持し景観を守ること

○お米の販売について

・現状

お米を名古屋市内で試食販売をしており、そこで好評価をいただきリピート客となっている。

リピート客となった方は、購入だけでなく地区に足を運ぶようになり、中には地域内で週末農業に参加するようになった方もいるとのこと。

・課題

現在でも30kg2万円ほどの価格で販売をしているが、収益性は良くなく、これからは付加価値をつけて高価格で販売することをしていく必要がある。具体的には、価格は倍にはしたく、人が来ること・お金がまわることで地域に元気が来ると考えている。

・就農者について

稲武地区は移住者が3世帯やってきて農業を始めているが、足助地区では週末農業という形で参加する方がいるだけでなく、大学生が期間限定で行うケースもある。

○上記を踏まえ、今後へ向けてグループでの結論

・農業の関係人口を増やすこと

どちらの地区でも「地域内農地で耕作放棄地が増えるペースと移住者のペースを比べたときに、移住者を増やすことでは対応しきれない」という考えがあるようだ。

週末農業、移住などで今よりも多くの方が関わることのほうが、持続的であり、かつ「未来に向けて地域を残していくこと」という目的に対する行動になっているように思える。

- ・顔が見える関係を構築していくこと

農産物であれば、JA を通さずに直接消費者に届けたい。JA に出荷して他の生産者が作ったお米と混ぜられて出荷されるのは本意ではない。

そうではなく、消費者と直接つながり、作物を届けるだけでなく地域にも足を運んでいただけることが、地域を元気にする。

- ・ヘンタイを増やしていく

移住者でもかまわないが、形式は問わず顔が見える関係の人を増やしていくことが必要。地域側の立場ではそのための営業活動をしていくことが必要。

■他グループの発表内容

他グループの発表にて、興味関心をもった内容につき以下記載をする。

- ・ヘンタイの自由を認める

入るのも出て行くのも自由。

言葉の捉え方次第で変わるものであるという理解ではあるが、初期段階では相手に地域に入ることへの覚悟を求めるものではなく、まずは気軽に入ってくる・そして出て行けるくらいであったほうが交流人口は増えるのではないかという内容であった

■所感

- ・就農目的においては移住よりは関係人口の構築

名古屋中心地から片道 1 時間ほどで行ける田舎の足助^{あすけ}地区だからかもしれないが、移住検討は難しい地域なのかもしれない一方、週末に気軽に通える地域だからこそ関係人口をいかに構築していけるかどうか。課題としては、地域の PR を含めた営業活動、地域との関わり方をどのように作るか、そして受け入れ地域は「誰でも受け入れるでは困るが、そこで移住希望者に地域に入る覚悟を求めるだけでは移住者はもちろん、関係人口もなかなか増えていかない。相手に求めるのではなく、地域が自分たちで動くことで相手に認知してもらうための活動をしていくために、地域内でできることを考え動く必要があると考えた。

- ・その他の地域内の課題は横のつながり、コミュニティ、自然

発表の中で上記を課題に挙げる意見は複数あった。地域内で一部の人間が目立っているように感じているからなのか、地域はみんなで作っているのだからこそ横のつながりが必要であるということ、またその延長に美しい自然であり、おいしい作物があるという循環が生まれていることを課題に持っているであろうと考える。上記の課題に対して、「年齢問わず、地域内外問わず・職種を問わずに交流していく」ことが良いのではという意見があった。地域内の課題は地域内で取り組むことは必要である一方で、地域内にないものは他の地域から持ってくるだけでなく、地域内でも自由に個の技を活かせる環境を作っていくことも必要であると考えている。

- ・上記を踏まえ

課題としてアウトプットできているだけでも、豊田市は進んでいると考えている。成果を求める前に、まずは本当の課題は何なのかを見つめなおす機会も必要であると考えている。その一つは人口を維持していくことであると思うものの、人口が増えた先にどのような世界があると良いのかを改めて考える必要があると感じさせられた研修であった。